



# テレマカシー

vol. **30**  
2011.10.20発行

**テレマカシーとは?** Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

かけがえのない「いのち」

どんな人にも、いのちの輝きがある

空のかなたへ上って行くいのち

懸命に、いまを生きるいのち

そして、そのいのちを支える人たち

関わってはじめてわかることがある

いのちと、みんなに、ありがとう

## 空のかなたへ

2011年10月

ひばりクリニック・うりずん

高橋 昭彦

### 第35回死の臨床研究会に行ってきました 「看取りには人と人が関わる」

去る10月9～10日に、幕張メッセで第35回死の臨床研究会が開かれた。シンポジウム「看取り～最期を迎えるということ」には、おやま城北クリニックの太田秀樹さんらが登壇した。太田さんは栃木県小山市で20年に渡り外来も往診も行ってきた「出前医者」だ。太田さんの話を中心に紹介する。

\*

在宅の高齢者にはいろんなことが起こる。そんなとき、入院するのかどうか。難しい検査や手術はできないが、在宅でもある程度の治療は可能だ。整形外科医でもある太田さんは、在宅で骨折の診断をしてギブスを巻く。点滴もするし胃ろうなどの管の管理や人工呼吸器の管理も行う。

高齢者が入院すると、意識が混濁して騒ぐ「せん妄」状態になったり、手術は成功したが寝たきりに、ということもある。入院が不利益となることも多いのである。高齢者に適切な医療は何か、それをどこでやるのかを考える必要がある。肺炎の治療なら在宅や施設で十分であり、骨折を手術せずに自然経過でみる勇気も時に必要である。

在宅ならではの話もある。肝臓病のその人はお酒が好きだった。お酒を飲むとアンモニアがあがるので、飲んだ翌日はアミノレバンというアンモニアを下げる点滴を太田さんに希望する。病院なら酒を禁止されるのだが、在宅では本人の「らしさ」や希望を重視する。

100歳に近い方に長く接していると、「先生でいい、病院へ行かなくていい」ということが伝わってくる。そういう人には「あなたはどうか死にたいのか」と改めていわなくてもわかる。「安心してください、順調に三途の川に近づいていますよ」と

言うこともある。長寿を目指すのではなく、天寿をかなえる医療が必要である。

今、グループホームなどの居宅系施設といわれるところでの医療が課題となっている。そこは介護職中心の生活の場。経営者が看取りを拒み、何かあったら救急車を呼ぶという施設での看取りはない。看取りに漠然とした恐怖を持つ介護職

も多いので、ていねいに在宅医療を示す。いい看取りの体験してもらおうと看取れる施設になっていく。

会場から「食べられなくなって、経管栄養や点滴を断わっていくと、その通りやってくれる医療者は見つかるが、ケアマネジャーや短期入所(ショートステイ)で理解ができないので大喧嘩になる」という声があった。

太田さんは、「いくら医者ががんばっていても社会全体で共有してもらわないとどうにもならない。家族は家で看取って欲しいと思っても、連携がとれていないと、短期入所や通所介護で熱が出たら病院へ行く。連携をとることについてはケアマネジャー

の問題が大きい。最近、ワイルドなケアマネジャーは少なく、施設や事業所に飼いならされたケアマネジャーが多い(会場笑)。ケアマネジャーの質を高める努力をしていきたい。

#### <司会者のまとめ>

看取りには人と人が関わる。看取る人も、看取られる人も、ほどほどのところで亡くなることを、私達は「大往生」といった。しかし、震災で亡くなった人は、何の準備もせずに人生の途中で亡くなった人が多い。がんも、準備する十分な時間がない。がん医療に関わる人はそこを十分考えて取り組んで欲しい。



おやま城北クリニック太田秀樹さん(右)は、在宅医療の大先輩です。



▲ぼく、かっちゃん♡

## かつのりくんが、お星さまになりました



▲お昼寝タイム

かつのりくんには障がいがあり、気管切開孔からのたんの吸引や、胃ろうからの栄養補給が必要でした。6歳のあまりにも早いで逝去でした。

お葬式の時、お父さんがご挨拶をされました。

「かつのりの小さな体には、あまりにも多くの病気や障がいが増えてしまいました。何度も大手術を受け、数か月の命と言われたこともありました。どうしてこの子にばかり、と思いましたが、妻と2人で、普通の子と同じように育てようと

話し合いました。……(中略)……妻は、かつのりが退院してからおよそ5年間、夜は一度も熟睡していません。それは、たんの吸引や世話でゆっくり休むことができなかつたからです。妻にこの場を借りて感謝したいと思います。」

\*

お母さんの胸に抱かれて天に昇り、お星さまになったかつのりくん。私達はあなたのことを忘れません。どうぞ安らかに。

(ご両親の許可を得て掲載しています)



▲秋の風景画作成中にひと休み

## 『うりぼう』のページ



▲うりぼう

うりぼう ▶ 代表 吉川かおり / 副代表 柚崎通介 / イラスト by ゆり坊  
 代表者住所 ▶ 〒336-0911 さいたま市緑区三室 636-72  
 メールアドレス ▶ uribowithurizun@gmail.com \*メッセージをお寄せ下さい。  
 ホームページ ▶ http://www.xn-p8ja5n3b.net/  
 代表・副代表 所属先 ▶ 慶應義塾大学医学部生理学柚崎研究室

テレマカシー Vol.29  
 に『うりぼう』の活動について掲載いただき  
 からわずかの間に、ま

ずは、Bコース【人工呼吸器をつけた高校生の修学旅行～看護師ボランティア派遣のため】のご寄付が、次いで、Aコース【非常用発電機をうりずんとひばりクリニックに設置するため】分も、Aコースおよび用途の指定のないご寄付を併せ、当初の目標額に達しました。

この度、テレマカシーの紙面を再びお借りいたしまして、たくさんのご寄付と、温かいメッセージの数々をお寄せくださいましたことに、お礼申し上げる機会をいただきました。

23年10月10日時点でのご寄付の総額は**1,160,120円(ご寄付者総数63名)**で、内訳は、**Aコース 460,000円、Bコース 371,000円、指定なし 324,940円**です。

お寄せいただいたご寄付は、それぞれに皆様にとって大切なものであったこと、様々な想いを込めてくださったことが伝わって参りまして、受け取らせていただくたび、胸がいっぱいになりました。

過去に、うりずん、ひばりクリニック、ゆうきさんにかかわられた方々が、今も遠くから見守って下さっていることも知りました。皆様、ほんとうにありがとうございました。

(今回は、あらかじめご意向を確認しておりませんでしたので、HP等でのご寄付者名の公表は控えさせていただきます。何卒ご了承くださいませ。)

実は、その後、Aコースの発電機につきましては、燃料がガソリンであることから、安全に保管し、必要時にすぐに出し入れができる収納庫が必要であると判断いたしました。ただいま製作をお願い致しております。費用は10万円ほどの予定です。

お寄せいただいた特に用途の指定のないご寄付のうち、A

コースに充てなかった分を、収納庫の設置費用に充てさせていただきたいと考えております。また、Bコースの目標額を上回った分につきましては、ゆうきさんに続いて、うりずんご利用者が今後修学旅行等に参加される際に活用させていただきます。

そのほかの詳細な運営状況につきましても公開させていただけるよう、準備を進めております。

現在、うりぼうは、うりずんとその母体であるひばりクリニックを今後も継続的に支援していくためには、ぜひとも多くの皆様にかかわっていただき、ご協力をいただくとともに、ご意見を反映していくことが必須であると考え、どのように運営をしていくべきかを模索しており、その一貫として、会員制度の導入を検討中です。会員制度ほか、皆様からのご意見をお待ちいたしております。

うりぼうの活動を通して、多くのすばらしい出逢いに恵まれておりますことに深く感謝しつつ、がんばっていこうと気持ちを新たに日々です。(うりぼう代表 吉川かおり)

## ♡ご支援ありがとうございました

ひばりクリニック 高橋昭彦

お蔭様で、ゆうきさんは、11月30日から2泊3日で行く沖縄修学旅行の準備が進んでいます。生まれてはじめての飛行機(人工呼吸器と酸素ボンベも機内へ運びます)はきっとドキドキの体験でしょう。無事に旅行に行けることを祈って、その日は沖縄にオーラを送りましょう。

発電機も設置され、10月7日にうりずんスタッフ全員参加で講習会を開き、いざというときに動かせるように業者さんに教えていただきました。ご支援いただいた皆様、寄付の呼びかけと管理をしていただいているうりぼうさん、本当にありがとうございました!

▶ 芝生を歩きました  
(最期の利用日)



▲クラシックカー見物



▲お面作り楽しいね



▲アスレチックのボールに乗り  
ました(最期の利用日)



▲散歩先でおやつ  
(最期の利用日)



▲ろまんちっく村の花屋さん

## 最期のプレゼント



▲かつのりくんの写真集をご家族に  
お渡ししました

▲メッセ  
ー  
ジ  
カ  
ー  
ド  
表  
紙



▲最期のプレゼント製作中

## うりずん日記

うりずん サービス管理責任者  
看護師 三上 綾子



**あ**つという間に夏が過ぎ、早くもうりずん内では「今年のクリスマス会をどうしようか」と相談する時期になりました。

その矢先、うりずんではとても悲しく、急なお別れがありました。うりずん開所当時より利用されていたお子様が、ご自宅で急に体調を崩されて天国へ旅立ってしまったのです。享年6歳4ヶ月でした。

スタッフは元気一杯に遊んでいた彼の最後の利用日を思い出しては、悲しみに打ちのめされました。そして、日常業務を遂行するのに、感情コントロールの難しさを体験しました。そのときに思ったのです。ご家族の辛さはいかほどかと…。そして、幼くして旅立たれた彼の人生は、短いかもかもしれませんが決して不幸ではなかった、大好きなご家族と充実した楽しい日々を送り、凝縮した人生を一生懸命過ごしたのだ、と信じたい…。

私たちは彼とご家族から本当に多くのことを教わりました。ありがとうございました。そして、心より、ご冥福をお祈り申し上げます。

**今**年の秋は、彼との別れ、東日本大震災の出来事が秋風となって私の心の中を吹き抜けます。その瞬間、とても寂しく、切ない感情が心の中を満たします。

そのような時は、自然にまかせて涙を流す、その感情に浸る、誰かと話をするなどして心の中の変化をゆっくりと待つようにします。

でも、私の一番の特効薬は利用者の皆さんと一緒に遊ぶことです。だからこそ、今年のクリスマス会は、今まで以上に楽しいものにしたいな～と考えています！どんなクリスマス会になるかは、お楽しみに♪



▲絵本だ～いすき♪



▲はみがきできるように  
なったよ



▲キーボード演奏に挑戦!

台風のあとのしゃぼん玉▶



▲モグモグ、ごっくん



一緒に添い寝しようね▶

### ●2011年 7月～9月のご利用状況

区分	7月	8月	9月	合計
A	21	20	18	59
B	39	45	36	120
計	60	65	54	179

\* 区分A ……人工呼吸器装着の方  
\* 区分B ……人工呼吸器を必要としない方  
\* いずれも延べご利用人数です

### ●2011年 7月～9月のご来所状況

	7月	8月	9月	合計
見学者	13	13	16	42
ボランティア	0	2	0	2
計	13	15	16	44

\* ボランティアは延べ人数です

### ●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	4名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	11名
合計人数	15名
契約準備中の方 区分A	0名
契約準備中の方 区分B	2名
契約準備中の方の合計人数	2名

\* 登録ご利用者の年齢 ……2歳～18歳

### ●2011年 4月～6月の寄付関係

ご寄付	2件
ご寄贈品	3件

わっどわ〜く

あれから10年

死の臨床研究会の前日に、2001年9月にアルフォンス・デーケン先生（上智大学名誉教授）と一緒にアメリカ東海岸ホスピス視察ツアーに参加したメンバーのうち18人が集った。このメンバーは、ニューヨークテロ事件に遭遇し、世界貿易センタービルの崩落を目撃、共に避難し支えあった特別な仲間である。同窓会では、それぞれの10年を語り合った。



2011アメリカホスピスツアー同窓会  
(中央がデーケン師)



テレマカシー29号へ  
寄せられた感想から

「うりぼう」について

●『その昔、山奥の診療所に行った(自治医大の)卒業生が往診の道すがら、親をなくした？うりぼうに出会いました。かわいそうに思った卒業生は、家に連れて帰って子供達と一緒にうりぼうを育て始めました。  
しばらくたったある日、猪の子供は飼ってはいけない、山に返さないといけないということを知られました。せっかくなつき始めたうりぼうとの別れはとてつらかった(子供達が)とのことでした。』という話を思い出しました。(三重県 奥野正孝さん)

● 他、支援団体ができてよかったですねという声多数

東日本大震災・緊急支援募金  
ありがとうございました

♡ ご支援いただいた募金は、皆様のお気持ちとともに、ユニセフへ16,519円、とちぎボランティアネットワークへ16,519円送金いたしました。ご協力ありがとうございました。<(\_)>

♡ テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(\_)>

おいしいもの  
探訪

ほくほく!「いもきんつば」



これが「いもきんつば」。  
季節限定(9月~2月)です!

「いもきんつば」である。これは、福井県の知人が送ってくださったもので、素朴な芋の味がほくほくとおいしく、甘さも控えめで、2-3個はいける(はず)。のどにつめないようにぬるめのお茶を用意してからいただく。

そもそも「きんつば」とは、小

麦粉を水でこねた生地で餡(あん)

を包んで各面を焼いたもののだが、中に芋がはいっているのをいもきんつばという。芋菓子では舟和の芋ようかんがあるが、このいもきんつばの味わいはまた違う。伊藤順和堂という福井県大野市にある和菓子屋さんでしか手に入らない季節限定品である。

お知らせ

9月3日行われた、第2回日本小児在宅医療・緩和ケア研究会の、シンポジウム1「小児在宅医療の現状」のまとめを、ひばりクリニックのホームページの「資料箱」で紹介しています。  
ホームページをご覧になれない方で希望される方は印刷したものを送りいたしますのでご連絡ください。  
[http://hibari-clinic.com/shiryo\\_box/kodomo\\_chiiki/vol02.html](http://hibari-clinic.com/shiryo_box/kodomo_chiiki/vol02.html)

「ひばりクリニック」のご案内

● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休診)	○	○	(休診)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問	訪問診療	訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14  
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899  
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp  
URL <http://hibari-clinic.com/>



栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。

- JR宇都宮駅から「ろまんちっく村」バス約35分
- お車で 東北自動車道 宇都宮ICより5分 宇都宮ろまんちっく村 入口向かい側

● この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。